

長久手の文化芸術の 継承に向けて

文化の家 アーカイブ計画

長 久手市文化の家は2023年に開館25周年を迎えます。四半世紀という一つの節目に向けて、文化の家アーカイブ計画が始動しました。

今年度は新型コロナウイルスの影響で公演数が減っていますが、この機に文化の家の財産ともいえる、過去の記録のアーカイブ化に力を注いでいます。この20年余りの歴史の中で、文化の家は日本、あるいは世界を代表するようなアーティストと共に公演を制作してきました。同時に、創造スタッフ制度をはじめとした地元アーティストの育成にも精力的に取り組む、地域に根ざした文化レベルの高い劇場を目指してきました。文化の家アーカイブ計画は、文化の家のこれまでの活動を記録として残し、誰もが記録にアクセスできるように公開していくものです。

昨今はテレビや新聞などでも公文書の取り扱いが話題になることが多いですが、記録として残されなかったものは歴史から消えてしまいます。それは文化芸術も同じことで、文化の家も長久手市の施設として、長久手の文化芸術の歴史を未来に残していく責任があります。市町村レベルで文化芸術活動のアーカイブを専門的に行っている自治体はまだ少ないため、文化の家が一つの先進事例となれるよう、積極的に取り組みを行っています。

とはいえ、アーカイブについては専門的な知識もなく、最初は何から手をつけたらいいのかわからない状態でした。そこで今回、文化の家では「NPO法人アート&ソサイエティ研究センター」が行っている「PARCHIVE」という活動に注目し、協力を仰ぐことにしました。PARCHIVEは、全国的にも珍しい

アートプロジェクトのアーカイブを専門とした活動で、まさに文化の家が今やろうとしていることに合致するものでした。

現在はアート&ソサイエティ研究センターの専門家の方と協力して、館内に存在する大量の文書や写真・映像記録などの整理、これまでの公演のデータベース作成などを行っています。文化の家の各所に眠る資料の山に、職員一同、途方もない気持ちになりながらも、本格的なアーカイブの構築を目指し、普段の業務の合間に少しずつ整理をしています。また、アーカイブ作業と同時進行で、3年後の25周年記念に向けての計画も進めています。公開できるのは少し先になりますが、今後の文化の家の活動にご注目ください。

